

# セイコーソリューションズ株式会社様

## ワークフローの導入により、内部統制の徹底や品質管理の向上、承認・決裁業務の効率化を実現

セイコーソリューションズ株式会社では、NTTデータのワークフローパッケージ「OpenCube Workflow」を用いて、製品開発の品質管理をはじめ、内部統制への対応や社内の各種申請業務のワークフロー化を実践。Microsoft SharePointやInfoPath、Active Directoryとの密接な連携を通じて、ワークフローを作成するシステム部門と実際に利用するユーザー部門双方の業務効率化や迅速化に大きく貢献している。

**セイコーソリューションズ株式会社**  
 本社所在地 千葉県千葉市美浜区中瀬 1-8  
 設立 2012年12月13日  
 資本金 5億円  
 従業員 約300名  
 事業概要 セイコーソリューションズ株式会社は、セイコーインスツル株式会社とセイコープレジジョン株式会社の2つのグループ会社で展開していたタイムビジネス事業（クロノトラスト事業とセイコーサイバータイム事業）を統合して、2013年4月に誕生した。セイコーホールディングスグループのウオッチ事業、電子・メカトロデバイス事業に続く、第3の柱の事業となるべく、積極的な事業拡大を推進している。  
 U R L <http://www.seiko-sol.co.jp/>

### 内部統制環境の整備・強化に向けてワークフロー製品の導入を検討

ビジネスのさまざまな課題解決のための先進ソリューションを展開する、セイコーソリューションズ株式会社（以下、セイコーソリューションズ）は、高い精度が求められる「時」に関わるものづくりで培った確かな品質を大きな強みに、システムの可用性や安定性に厳格な金融・流通業界での豊富な実績を持つ。企画から開発、運用にいたるまでトータルに提供する「システムインテグレーション」をはじめ、私たちの暮らしやビジネスを支える「決済ソリューション」や、ICTの進展とともに歩んできた「ネットワークソリューション」など、そのいずれもが高い評価を得ている。

同社では、前身であるセイコープレジジョン株式会社の頃から、社内のさまざまな承認・決裁業務に関して、「Microsoft SharePoint」のドキュメントライブラリ機能を活用し、Excelで作成した申請書類をメールのやりとりで実施してきた。そのため管理が複雑化、進捗状況を詳細に確認できないなど、業務上不都合な点があったという。

そうした折、日本版SOX法（金融商品取引法）対応に向けた内部統制強化の必要性が高まり、業務プロセスの明確化と申請・承認に関する証跡の確保・管理が必須となってきた。そこで日本版SOX法が施行された2008年頃から、同社では一部で利用されていた既存ワークフローシステムをリプレースして製品の品質管理プロセスを強化するとともに、内部統制の強化を図ることを目的として全社に展開するための新ワークフローシステムの導入を検討し始めた。

### SharePointやInfoPathとの連携を前提にNTTデータの「OpenCube Workflow」を選定



セイコーソリューションズ株式会社  
 情報センター情報システム企画課  
 課長  
 高原 誠氏

「帳票作成から承認・決裁、進捗状況の管理、メンテナンスに至るまで、既設のSharePoint、Active Directoryと連携できるシステム環境を構築して、各業務のシステム化への効率化や迅速化を図りたかった」と、情報センター情報システム企画課課長の高原誠氏も語る通り、ワークフローシステムの選定にあたってセイコーソリューションズが重視していたのは、既に帳票処理に活用していたSharePointや帳票の作成用に導入を検討していた文書ファイル作成アプリケーション「Microsoft Office InfoPath」とのスムーズなシステム連携だった。

同社では従来、申請書類をExcelで作成していたために、記載ミスなど書類に不備があった場合でもシステム側で自動的にチェックする機能がなく、書類受領後の手戻りが発生していた。そこで、記入ミスなどを事前にチェックできる入力支援や、入力データの有効活用を



セイコーソリューションズ株式会社  
 情報センター情報システム開発課  
 大関 博氏

容易に行うことができ、既設のSharePointとの連携がスムーズなInfoPathの導入を検討していた。そのため、ワークフロー製品の選定に際して、SharePoint、InfoPathとのスムーズなシステム連携は必須だった。「ワークフローを作成・管理する情報システム部門と、実際に活用する総務や品質管理などのユーザー部門の双方にとって使いやすく、業務の効率化や迅速化が図れる環境を整備したかった」と、情報センター情報システム開発課の大関博氏は説明する。

また同社の品質管理部門では以前から、故障対応やトラブル処理に伴う帳票のやりとりにワークフローシステムを独自に導入し、業務の自動化を実践してきた。しかし従来のワークフロー製品は単独で機能するシステムだったことから、対処・報告業務は停滞しがちで、クレーム対応にも時間を要していたという。「品質改善が図れるまで何度も同じフローを回す必要があり、報告・確認作業が滞留していたら、メールや電話で個別に督促せざるを得なかった」と、品質保証室の川島宏氏も語る。

総務部門の申請業務に関しても、「既存のシステム環境では、Excel上のデータを有効活用できずに組織情報を手作業で再入力していた。例えば、社員が外部の講習会に参加し費用を申請する際、従来は振込依頼書の申請処理と口座振込の処理が別々に管理されていたため、申請者が振込予定日を確認することができずにいた」

「また同社の品質管理部門では以前から、故障対応やトラブル処理に伴う帳票のやりとりにワークフローシステムを独自に導入し、業務の自動化を実践してきた。しかし従来のワークフロー製品は単独で機能するシステムだったことから、対処・報告業務は停滞しがちで、クレーム対応にも時間を要していたという。」

「品質改善が図れるまで何度も同じフローを回す必要があり、報告・確認作業が滞留していたら、メールや電話で個別に督促せざるを得なかった」と、品質保証室の川島宏氏も語る。



セイコーソリューションズ株式会社  
管理本部 総務人事部  
総務課 課長  
堀 桂一郎氏

と、総務人事部 総務課 課長の堀 桂一郎氏も語る通り、社内のさまざまな業務において、統一されたワークフローシステムの導入が求められていた。

そこで、SharePoint や InfoPath とのシステム連携を視野に入れ、複数のワークフロー製品を比較検討の末、同社が選定したのが、NTT データのワークフローパッケージ「OpenCube Workflow」だった。

「OpenCube Workflow」を選定した理由は、大別して以下の通りだ。第1に、前述したような、SharePoint や InfoPath との完全なシステム連携。第2に、「Microsoft Visio」を活用した回覧ルート設定のしやすさや、既存のワークフローをテンプレートのようにして加工、再利用できる点。ユーザー部門からの要請に応じてワークフローを作成したり、業務変更に伴って、ワークフローを修正したりできることは、日々の通常業務を行いながら新システムの導入を行わなければならない情報システム部門にとって大きな魅力だったという。さらに既存の Excel で作成した申請書フォームをそのまま、回覧することも短期導入を進めるうえで、大きなメリットと考えた。そして第3に、「Active Directory」の情報活用と連携によるシングルサインオン環境の実現。同社では社員のユーザー管理を「Active Directory」を用いて実施しているため、申請や承認に関する詳細なアクセス権限を Active Directory の情報から利用でき、ユーザー側も SharePoint にログインするだけでワークフローを利用できるなど、これら利便性を高めるさまざまな機能が高く評価された。

### きめ細かなワークフローの作成・実施を通じて内部統制に的確に対応、品質管理向上に大きく貢献

選定に際して「OpenCube Workflow」の導入の容易さや、使い勝手を検討するとともに、システムの導入から構築、運用管理に至るまできめ細かな検討を重ね、スムーズな導入を目指した。そして SharePoint や「OpenCube Workflow」を活用した、セイコーソリューションズの承認・決裁業務は、2010年8月に稼働を開始した。なお、製品提案、導入のサポートは特約店である株式会社システナが担当している。

「検討開始から導入まで1年以上を要したが、事前に

さまざまなケースや製品連携の検討を行ったことで、導入そのものはとてもスムーズに進んだ。」(大関氏)

さらに 2012年8月には既存の「SharePoint Server 2007」を「SharePoint Server 2010」へバージョンアップも行った。バージョンアップに際しては「OpenCube Workflow」が SharePoint の 2007 版にも 2010 版にも対応を行っていたため、大きな障害もなく、スムーズかつ速やかにマイグレーションも実施できたという。

同社のワークフローでは、情報センターに限っても毎月 200 件を超える案件が処理されているが、新しいワークフローが必要になった場合でも既存のワークフローをテンプレートのように再利用することで、効率よく短期間で容易に作成できるという。懸案だった内部統制への対応についても、「OpenCube Workflow」のワークフローを提示することで業務フローも的確に可視化できるため、監査用資料として有効であるばかりか、承認・決裁情報の保管・検索・取り出しの作業においても大幅な省力化が実現している。

「当社では、ビジネス最適化のため、組織変更や人事異動が頻繁に発生しており、このような変更にも柔軟に対応できる『OpenCube Workflow』は私たちにとって強い味方。Active Directory との連携によるシングルサインオン環境の実現や SharePoint から業務を開始できることで、システムのユーザー利用率向上に大きく貢献している。外部監査の際も業務フローが一目瞭然であり、強力な検索機能を用いて必要な資料も直ちに呼び出せる。監査の対象資料を揃えるために一週間がかりだったところが、今では正味 2 日間程度へと大幅に短縮できた。」(高原氏)

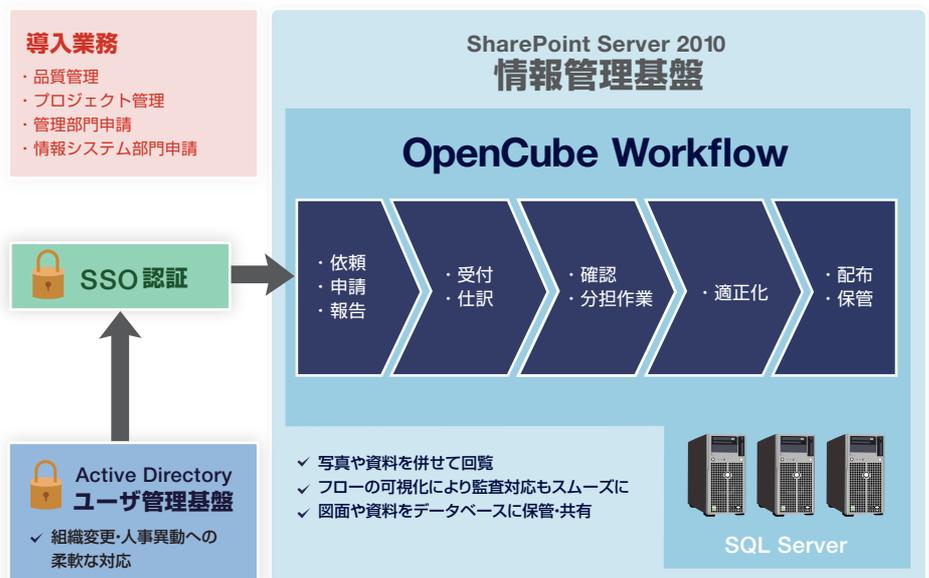
製品の品質管理、故障などのトラブル対応に

「OpenCube Workflow」を活用している品質保証室にとっても、例えば報告が停滞している場合には、手続を促す督促メールが自動送信されることで、トラブル対応の迅速化が図れるほか、ワークフローによるきめ細かな品質管理体制の実現により、製品の品質向上にも確実に貢献しているという。

「故障がなぜ発生したのか、提供したサービスに対してなぜクレームが発生したのか。単なるトラブル対応だけでなく、場合によっては同じフローを何度も繰り返すことで原因究明を図り、再発防止を徹底する。これはまさに日本のものづくりを長年にわたり支えてきたセイコーグループならではの姿勢であり、それらをワークフローに生かすことで、品質向上が図れる仕組みを構築できた。原因究明を図る『要因分析』の姿勢が、社内に浸透した意義は大きい。」(川島氏)

セイコーソリューションズでは今後も「OpenCube Workflow」をフル活用して、業務のさらなる効率化や迅速化を目指すという。「記入ミスなどによる申請処理の手戻りが大幅に削減できたことに加え、今後は InfoPath で作成した帳票を基幹システムと連動させるなど、データの有効活用を通じて、再入力などの無駄を省き、さらなる効率化を図りたい」と、堀氏も期待を寄せる。また、現状は紙の文書でやりとりしている 管理部門の承認・決裁業務にも「OpenCube Workflow」によるワークフローの仕組みを導入して業務を可視化、ペーパーレスや業務フロー改善なども図っていく考えだ。

日本の「時」を支えてきたものづくりにワークフローを活用した高品質な製品開発で社会に貢献する、セイコーソリューションズの今後の展開に注目が集まる。



## 株式会社NTTデータ

技術開発本部  
サービスイノベーションセンター  
TEL.050-5546-9370  
<http://www.nttdata.com/jp/ja/case/> (お客様事例)

製品の詳細はこちらをご覧ください⇒<http://www.opencubelite.com/>